

武庫川女子大学附属総合ミュージアム

Mukogawa Women's University Museum

開設一周年記念シンポジウム

大学ミュージアムと文化財

— 教育と研究の成果を活用する —



日時：2021年6月30日（水） 13:15~16:00

会場：①武庫川女子大学 中央キャンパス 公江記念講堂（定員：60名）

対面での参加は学内関係者のみです。事前申し込み不要。お気軽にご参加ください。

②オンライン配信 <Zoom>（定員：200名） オンデマンド配信の予定あり
一般参加の方は、Zoom 参加のみになります。事前申し込みをお願いいたします。

申し込み方法

オンライン参加の方は Zoom の URL をお送りしますので、事前申し込みが必要です。

申し込みフォーム <https://forms.gle/qpBVfp7Zs7wBnzme9>

開催の前日に URL と参加用 ID、パスワードをお知らせします。

申し込み締切：2021年6月25日（金）16時まで。

オンライン配信
「申し込みフォーム」
(二次元コード)



参加費：無料

なお、新型コロナ感染拡大の状況に対応して、オンライン開催のみにすることがあります。
その場合は HP やメールを通してお知らせします。

主催・問い合わせ 武庫川女子大学附属総合ミュージアム（中央キャンパス IR4 階） 開催協力 生活美学研究所

Mail: haku@mukogawa-u.ac.jp HP: <https://www.mukogawa-u.ac.jp/~museum/>



シンポジウム登壇者 プロフィール（敬称略）

前田 俊一郎（まえだしゅんいちろう）

文化庁 文化財第一課 民俗文化財部門 主任文化財調査官
博士（文学）専門は日本民俗学

1967年山梨県生まれ。早稲田大学第一文学部史学科、成城大学大学院文学研究科日本常民文化専攻、民俗学研究所研究員を経て現職。文化財調査官として、全国の有形・無形の民俗文化財の指定に携わる。著書に『民俗的世界の位相—変容・生成・再編—』（編著 慶友社 2018年）、『墓制の民俗学—死者儀礼の近代—』（単著 岩田書院 2010年）など。

橋爪 節也（はしづめ せつや）

大阪大学総合学術博物館教授 / 大学院文学研究科（兼任）
専攻は日本美術史 / 近世近代絵画史

1958年、大阪市に生まれる。東京芸術大学美術学部附属古美術研究施設助手、大阪市立近代美術館（仮称）建設準備室学芸員（大阪市立美術館学芸員兼務）を経て現職。著書に『大大阪イメージ—増殖するマンモス/モダン都市の幻像—』（創元社）、『モダン心斎橋コレクション—外ロボリスの時代と記憶—』（国書刊行会）。監修『木村兼葎堂全集』（藝文書院）、『橋爪節也の大阪百景』（創元社）、『原寸復刻「浪花百景」集成』（創元社）ほか北野恒富展、佐伯祐三展、「大大阪モダンズ展」などの展覧会も企画や監修。

横川 公子（よこがわ きみこ）

武庫川女子大学 特任教授 / 附属総合ミュージアム館長
専攻は日本服装史 / 生活美学

1994年から生活環境学部教授・生活美学研究所・女性研究者支援センター兼務を経て現職。2002～2005年、国立民族学博物館客員教授。西鶴作品に描かれた服飾の諸相から、現代の食玩や粗品まで視野に入れた生活文化の近代化に関する研究に従事。著書に『服飾表現の位相』（昭和堂）、『服飾を生きる—文化のコンテクスト—』（化学同人）、『衣と風俗の100年』（ドメス出版）、『大村いげ京都町家ぐらし』（河出書房新書）ほか。生活文化玉手箱シリーズ展示①～⑥、「ハレの日のきもの—近代の裾文様—」展示など企画・監修。

武庫川女子大学附属総合ミュージアムは2020年2月25日に開設しました。それから一年が経ち、大学ミュージアムとしての将来展望を考える一助として、当館所蔵の「近代衣生活資料」が登録有形民俗文化財に登録された意味や標本資料の文化的意味について提案し、大学内外における教育貢献や研究支援の在り方について、文化庁関係者や大学ミュージアム関係者、近代生活文化の研究者を交えて討論します。



シンポジウムスケジュール

13:15 開会

総合司会 宇野 朋子
（附属総合ミュージアム研究員 / 建築学科准教授）
ごあいさつ 河合 優年（本学副学長）

13:20 基調講演①

「衣生活資料の保存と活用に向けて
—登録有形民俗文化財「武庫川女子大学近代衣生活資料」の
ポシビリティー—

前田 俊一郎（文化庁 文化財第一課 民俗文化財部門 主任文化財調査官）

我が国では、日本人の生活の推移を示す文化財を「民俗文化財」として文化財保護法に位置づけている。本講演では、「衣」に関わる民俗文化財の保護の歩みを追いながら、武庫川女子大学所蔵資料の文化財的価値や登録されたことの意義について考えるとともに、有形の民俗文化財の保存・活用の現状と今後の展望についてお話する。

講演②

「こんなにおもしろいユニバーシティミュージアム—その可能性を探る—

橋爪 節也（大阪大学総合学術博物館教授 / 大学院文学研究科（兼任））

全国各地の大学に、個性的なユニバーシティミュージアム（大学博物館）があり、地域の特質や歴史を踏まえながら、調査研究や教育、社会への発信を実践している。それがどのように国公立や私立のミュージアムとは異なる活動を展開しているかを紹介するとともに、その新しい可能性と地域社会にとって貴重な文化拠点であるかの問題を提起し、新しく開館した武庫川女子大学附属総合ミュージアムへの期待にも触れたい。

講演③

「“近代衣生活資料”が創出する文化的価値を考える」

横川 公子（武庫川女子大学 特任教授 / 附属総合ミュージアム館長）

生活資料は、暮らしの中で使われ、所持されて、さまざまに価値づけられている。大学ミュージアムではさらに、教育と研究を通して、その文化としての多様な価値を発掘し創出する。こうした価値の継承や再生をめぐる、今までの取組みを振り返りながら、その役割や可能性について考えたい。

15:20 パネルディスカッション

コメンテーター

井上 雅人（附属総合ミュージアム研究員 / 生活環境学科准教授）
株本 訓久（附属総合ミュージアム研究員 / 生活情報学科准教授）

16:00 閉会

